CCT
Structural Heart Diseases Course

Complex Cardiovascular Therapeutics

日程 | 2026年1月17日(土)

会場 | 品川プリンスホテル
メインタワー

Challenge and Innovation

Web URL●https://cct.gr.jp/ Find us on

Facebook●https://www.facebook.com/CCTJAPAN/

Structural Heart Diseases

CCT SHDは、通常の学会フォーマットを一歩はみ出す“視点特化型”ミーティングです。いま何が新しく、私たちはどこへ向かうべきか - SHDの本質に切り込むディスカッション主導のセッションを多数用意しました。臨床･研究･デバイス･教育、それぞれの立場から“違う見え方”をぶつけ合い、次の臨床スタンダードを共創します。
さらにCCT-Surgicalとの合同セッションでは、TAVI、M-TEER をテーマに外科 × 内科が同じテーブルで語り合うスペシャル企画を展開。
境界をまたいだアプローチの妙、リアルな意思決定のツボを、熱量高く楽しく共有します。
いつもの学会にない刺激を、CCT SHDで。全国のSHD好き、ここに集まれ。

CCT Structural Heart Diseases Course Director
山本　真功（豊橋／名古屋／岐阜ハートセンター）

Course Directors

齋藤　滋
湘南鎌倉総合病院

林田　健太郎
慶應義塾大学

山本　真功
豊橋／名古屋／岐阜ハートセンター

Course Co-Directors

白井　伸一
小倉記念病院

原　英彦
東邦大学医療センター大橋病院

山中　太
湘南鎌倉総合病院

渡辺　弘之
東京心臓血管･内科クリニック 南行徳本院

渡邊　雄介
帝京大学

日程

2026年1月17日（土）

会場

品川プリンスホテル
メインタワー 19F ゴールド、17F オパール

＊会場開催
　Web配信、オンデマンド配信はございません

お問い合わせ

CCT事務取扱
〒440-0886 愛知県豊橋市東小田原町48番地セントラルレジデンス201
Tel: 0532-57-1275 / Email: secretariat@cct.gr.jp

参加登録

https://www.heartmeetings-plus.com/event/view?id=58

メディカル	3,000 円
メディカルスタッフ	1,000 円
企業	5,000 円
研修医・学生	無　料

＊同日開催のSurgical Courseへもご参加いただけます。
＊研修医･学生の方は参加登録時に証明書のアップロードが必要です。

参加登録受付

メインタワー 19F ゴールド　ホワイエ
8:30-17:00

クローク

メインタワー2F をご利用下さい

Program at a glance

1月17日（土）

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
19F ゴールド	Daily Practice を変える New Evidence これまでとこれから（エドワーズライフサイエンス(同)）	Evolut™使いませんか? ～SMART trial/ Low risk 5年データを基にEvolutの適材適所を考える～（日本メドトロニック(株)）	もう第3の弁とは言わせない!? ～経験とデータで語る Navitor～（アボットメディカルジャパン(同)）	SENTINEL™の真価を探る: 実臨床での使用症例とその適応（ボストンサイエンティフィックジャパン(株)）	Luncheon Seminar WATCHMAN（ボストンサイエンティフィックジャパン(株)）	適材適所のクリップ選択 ーそこにコンセンサスはあるのか?（アボットメディカルジャパン(同)）	PASCAL 2年から見えてきた成績（エドワーズライフサイエンス(同)）	Coffee Break Seminar（(株)カネカメディックス）	TR	Surgical-SHD 合同セッション② Atrial Functional MR
17F オパール					Surgical-SHD 合同セッション① 弁輪拡大					

Complex Cardiovascular Therapeutics
CCT
Structural Heart Diseases Course

日程 2026年1月17日（土）
会場 品川プリンスホテル　メインタワー

Saturday, January 17

19F ゴールド

Opening Remarks

齋藤　滋（湘南鎌倉総合病院）

Sapienセッション

9:00-9:50 Daily Practiceを変えるNew Evidence これまでとこれから

本セッション「Daily practiceを変えるNew evidence―これまでとこれから」では、SAPIENシリーズが積み重ねてきたEvidenceであるPARTNER 2試験10年、PARTNER 3試験7年成績、最新デバイスであるSAPIEN 3 Ultra RESILIAの初期成績を踏まえ、今後のAS治療のあるべき姿を皆さんと考えていきたいと思います。もちろんデバイスに関するEvidenceだけではなく、VancouverからのDouble tap法やSTS/TVT registryからのRe-do TAVI初期成績など、最新技術に関するエビデンスも徹底的に読み解きます。初期成績、長期耐久性に加えて、SVD発生時の再治療戦略を巡り、演者だけでなく会場の皆さまとも"診療が本当に変わるか"をガチで議論するインタラクティブセッションにできればと思います。当日皆さんとお会いできることを楽しみにしております。

志村　徹郎（岐阜ハートセンター）
白井　伸一（小倉記念病院）

座長
白井　伸一（小倉記念病院）
山﨑　和正（札幌東徳洲会病院）

コメンテーター
生田　旭宏（倉敷中央病院）
奥野　泰史（聖マリアンナ医科大学）

演者
SAPIEN series 初期成績から長期耐久性とその先を見据えて
志村　徹郎（岐阜ハートセンター）

"待つ"から"備える"へ
- 重症ASのプロアクティブ・マネジメント
谷口　智彦（神戸市立医療センター中央市民病院）

共催：エドワーズライフサイエンス合同会社

Evolutセッション

9:55-10:45 Evolut™使いませんか？ ～SMART trial/Low risk 5年データを基にEvolut™の適材適所を考える～

SMART試験やLow risk5年データがそろったEvolut™。データで見るともはや非の打ちどころがないTAVI弁として証明されてきましたが、その一方で見合った程の使用普及には至っていないのが現状です。「適材適所」という言葉があるように全ての症例にEvolut™を用いる必要はないかもしれませんが、どういった事があればより臨床で使いやすいTAVI弁になるのか皆さんと議論できればと思います。

仁科　秀崇（筑波メディカルセンター病院）
日置　紘文（イムス東京葛飾総合病院）

座長
仁科　秀崇（筑波メディカルセンター病院）
林田　健太郎（慶應義塾大学）

コメンテーター
鈴山　寛人（済生会熊本病院）
髙木　健督（国立循環器病研究センター）
八島　史明（済生会宇都宮病院）

演者
当院におけるEvolutのRapid pacing deploymentとTC-TAVIの導入経験
秋山　大樹（筑波メディカルセンター病院）

SMART Trialから考えるEvolutの良い適応
竜﨑　俊亘（慶應義塾大学）

MedtronicのEvolutとSelectSecureがあれば安心
由木　悠仁（新東京病院）

待ってましたEvolut FX+
髙橋　徳仁（順天堂大学医学部附属順天堂医院）

共催：日本メドトロニック株式会社

Navitorセッション

10:50-11:40 もう第3の弁とは言わせない！？ ～経験とデータで語るNavitor～

2022年に第3の弁として本邦に上市されたNavitor。導入から3年が経過し、経験とデータが蓄積されつつあります。『留置の制御が難しい』『ペースメーカーが多い』『拡張力が弱い』『Commissure alignmentできない』など、導入初期に囁かれていた懸念そのままに食わず嫌いになってしまった方も多いかもしれません。しかし、これは真実なのでしょうか。適切な症例選択や留置方法について、経験とデータで語るNavitorの最前線をお届けします。

石津　賢一（小倉記念病院）
多田　憲生（仙台厚生病院）

座長
中澤　学（近畿大学）
福　康志（倉敷中央病院）

コメンテーター
上野　博志（富山大学附属病院）
神波　裕（済生会熊本病院）

演者
留置制御の決定版！～ AMAGAMIテクニック ～
多田　憲生（仙台厚生病院）

高度石灰化症例でも使える？
～ 拡張力の限界に迫る ～
土井　信一郎（順天堂大学医学部附属順天堂医院）

リアルワールドデータでNavitorの懸念を検証する
石津　賢一（小倉記念病院）

共催：アボットメディカルジャパン合同会社

Sentinelセッション

11:45-12:35 SENTINEL™の真価を探る：実臨床での使用症例とその適応

脳梗塞は、TAVI周術期における最大の合併症の一つであり、その予防は依然として重要な課題です。脳塞栓保護デバイスとして登場したSENTINEL™は、TAVIの安全性向上に貢献できるデバイスとして期待されていますが、その脳梗塞抑制効果については現在も議論が続けられています。
本セッションでは、最新のエビデンスに基づき、SENTINEL™の実臨床における真の有用性について検討します。適応症例の選択基準、そして安全かつ確実な手技のポイントに焦点を当て、周術期脳梗塞予防の最前線を深掘りします。

山中　太（湘南鎌倉総合病院）
渡邊　雄介（帝京大学）

座長
西岡　健司（広島市立広島市民病院）
山中　太（湘南鎌倉総合病院）

コメンテーター
田澤　大志（仙台厚生病院）
徳田　尊洋（名古屋ハートセンター）
堀田　怜（札幌心臓血管クリニック ）

演者
SENTINEL™について思うところ
長沼　亨（新東京病院）

共催：ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社

Luncheon Seminar

12:45-13:35 WATCHMAN手技の最適化を再考する —更なる進化への挑戦—

本年のCCT-SHDの左心耳セッションでは、シースの使い方を徹底討論して参ります。いよいよ可変式シースであるTruSteerが使用可能になり、これまでうまく留置できなかった症例に対してどのように使用していくのか、経験豊富なエキスパート達から学んでまいります。また、手技の安全性向上や簡略化に一役買っているVersaCross Connectに関しても、改めてその使い方を学び、エキスパートたちの使用方法を身につけることで、明日から実践できる内容になっております。最後に術後の薬物療法に関して最新情報をアップデートし、いよいよ本邦で始まった薬物フリーの有用性を示すRCTであるNAPT-LAAC試験の概要も議論します。本セッションで今知りたいWATCHMANの最新トピックスが学べること間違いなしです!!奮ってご参加ください。

阿佐美　匡彦（三井記念病院）
中嶋　正貴（仙台厚生病院）
八戸　大輔（札幌心臓血管クリニック）

座長
阿佐美　匡彦（三井記念病院）
原　英彦（東邦大学医療センター大橋病院）

演者
VersaCross Connect™ Access Solution for WATCHMANによる中隔穿刺：
何が良くなり、何に注意すべきか
八戸　大輔（札幌心臓血管クリニック）

TruSteer™ Access Systemで広がる
WATCHMAN手技の可能性
山口　遼（豊橋ハートセンター）

これまでとこれからの
WATCHMAN術後抗血栓療法を考える
中嶋　正貴（仙台厚生病院）

共催：ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社

MitraClipセッション

13:40-14:30 適材適所のクリップ選択 —そこにコンセンサスはあるのか？—

MitraClipの良いところの1つは、4つのクリップサイズから解剖に合わせて自由に選択できるところだろう。しかし、どのクリップを使えば良いのか迷ったり、心臓に入れた後に後悔したりしたことは誰もが経験したことがあるはずだ。ただ、クリップサイズごとの注意点や治療成績の違いを本当に知っているだろうか?本セッションでは、実際のクリップサイズごとの治療成績を振り返り、どのようなポイントでクリップを選べば良いが、症例を通じて学んでいきたい。

天木　誠（国立循環器病研究センター）
久保　俊介（倉敷中央病院）
佐地　真育（東邦大学医療センター大森病院）

座長
久保　俊介（倉敷中央病院）

コメンテーター
大槻　尚男（東京女子医科大学）
佐地　真育（東邦大学医療センター大森病院）

演者
日本でのクリップ選択の実際：OCEAN-Mitral registryより
久保　俊介（倉敷中央病院）

vFMRでクリップ選択に悩んだ症例
兒玉　和久（済生会熊本病院）

DMRでクリップ選択に悩んだ症例
倉島　真一（国立循環器病研究センター）

AFMRでクリップ選択に悩んだ症例
吉田　彩乃（近畿大学）

共催：アボットメディカルジャパン合同会社

Pascalセッション

14:35-15:25 PASCAL 2年から見えてきた成績

本セッションでは、経カテーテル僧帽弁修復術におけるPASCALシステムの最新成績と、その特性を最大限に活かせる症例選択について議論します。Passive closureやSpacer機構といったPASCALの特長が有効に機能した症例を通して、実臨床に直結する知見を共有していただきます。PASCAL治療戦略を再考する貴重な機会となるセッションです。ぜひご参加ください!

遠田　佑介（仙台厚生病院）
林田　健太郎（慶應義塾大学）

座長
丸尾　健（倉敷中央病院）
山本　真功（豊橋／名古屋／岐阜ハートセンター）

コメンテーター
宗久　佳子（仙台厚生病院）
森川　喬生（心臓病センター榊原病院）

演者
PASCAL成績など
遠田　佑介（仙台厚生病院）

PASCALスイートスポット症例など
泉　佑樹（榊原記念病院）

共催：エドワーズライフサイエンス合同会社

Coffee Break Session

15:30-16:00 TAVIにおけるBAVの現状と展望

大動脈弁狭窄症に対するBAVは、TAVIの普及に伴いBAV単独での症例数は減少傾向にある。しかし、血行動態不安定症例への緊急施行や、TAVI周術期におけるpre/post dilatationとしての重要性はむしろ高まっている。さらに、非心臓手術前のブリッジ使用などいまだに活用されている。本演題では、現状のTAVIにおけるBAVの役割を総括する。最新の知見を共有し、多様化するニーズに対するBAVの再評価と、その臨床的意義について検討したい。

日置　紘文（イムス東京葛飾総合病院）

座長
田邉　健吾（三井記念病院）

コメンテーター
村石　真起夫（東京ベイ・浦安市川医療センター）
山脇　理弘（横須賀市立総合医療センター）

演者
日置　紘文（イムス東京葛飾総合病院）

共催：株式会社カネカメディックス

TRセッション

16:05-16:55 **TR**

ついに「経カテーテル三尖弁治療（TTVI）の時代」が到来しました。
この数年間で、RCTおよび大規模レジストリの結果が相次いで報告され、安全性と有効性に関するエビデンスは世界的なコンセンサスを形成しつつあります。
しかし、実臨床にTTVI を適切に導入するためには、依然として多くの課題が残されています。
とりわけ重要なのは「術前評価」と「症例選択」です。
どの指標を見て、どこまで評価し、どのタイミングで“治療介入”へ踏み出すべきなのか。
さらに、日本発のエビデンスを世界に発信していくために、私たちは何をすべきか。
日常診療におけるアウトカムの蓄積だけでなく、研究デザインを意識したレジストリの構築、統一された評価体系の確立、国際基準との整合性など、今まさに検討すべきテーマが山積しています。
本セッションでは、2つの Keynote Lecture を通じて、
1. 日常臨床としての TTVI の実践と課題
2. 日本からどのようなエビデンスを世界へ発信すべきか
これらのテーマを軸に、参加者の皆様とともに、三尖弁治療の未来を見据えた活発な議論を行いたいと思います。

杢田　真吾（聖マリアンナ医科大学）
杉浦　淳史（名古屋ハートセンター）

前半：今だからこそ考えるTRエコー、ルーチンと研究目線での計測

座長
杉浦　淳史（名古屋ハートセンター）

コメンテーター
岡崎　真也（順天堂大学医学部附属順天堂医院）
北井　豪（国立循環器病研究センター）
田中　徹（聖マリアンナ医科大学）
山口　淳一（東京女子医科大学）
渡辺　弘之（東京心臓血管・内科クリニック 南行徳本院）

演者
出雲　昌樹（聖マリアンナ医科大学）

後半：今だからこそ知るべきT-TEER

座長
杢田　真吾（聖マリアンナ医科大学）

コメンテーター
岡崎　真也（順天堂大学医学部附属順天堂医院）
北井　豪（国立循環器病研究センター）
田中　徹（聖マリアンナ医科大学）
山口　淳一（東京女子医科大学）
渡辺　弘之（東京心臓血管・内科クリニック 南行徳本院）

演者
杉浦　淳史（名古屋ハートセンター）

Surgical SHD合同セッション②

17:00-18:00 **Atrial Functional MR ～内科と外科の共創～**

心房が広がれば議論も広がる?!今回はAtrial Functional MR に対する治療戦略を、内科･外科の視点から掘り下げる合同セッションです。
外科手術のみならず、カテーテルで僧帽弁の構造的加療が可能な時代。高齢化社会で増加するAFMRにどう向き合うか、診療科の垣根を超えて議論します。
明日からの診療に役立つヒントを共有できる、熱いセッションに是非ご参加ください。

北村　英樹（名古屋ハートセンター）

座長
鍵山　暢之（順天堂大学　循環器内科）
小山　裕（岐阜ハートセンター　心臓血管外科）

コメンテーター
北村　英樹（名古屋ハートセンター　心臓血管外科）
鶴田　ひかる（慶應義塾大学　循環器内科）
松本　新吾（東海大学　循環器内科）
山口　裕己（昭和医科大学　心臓血管外科）

演者
大規模レジストリーからみえてきたAtrial functional MRに対する治療成績
金子　智洋（順天堂大学　循環器内科）

心房性機能性MRの治療方針を考える
宮原　大輔（聖マリアンナ医科大学 循環器内科）

AFMR 外科医の視点から
平岡　有努（心臓病センター榊原病院　心臓血管外科）

17F オパール

Surgical SHD合同セッション①

13:00-14:00

こんな弁輪拡大はイヤだ！？ ～その拡大、ほんとうにTAVIフレンドリーですか？～

出血や基部での操作など、高い技術力を要求される大動脈弁輪拡大。近年は、将来的なTAVIを見据えた弁輪拡大も注目されています。しかし、弁輪拡大後にValve-in-valveを行う際、思わぬ困難に直面することもあるとのこと。本セッションでは、"この拡大はありがたい""これは困った"など、内科医と外科医が一同に会し、実際に苦労した症例や、AVR術後の形態変化など、両者の本音が飛び交う、臨床的インパクトの大きいDiscussionを展開します。この機会に一度、皆で考えてみましょう、"その拡大、ほんとうにTAVIフレンドリーですか?"

北村　英樹（名古屋ハートセンター）

座長

岡本　一真（浜松医科大学　心臓血管外科）
渡邊　雄介（帝京大学　循環器内科）

コメンテーター

伊藤　丈二（東京ベイ・浦安市川医療センター　心臓血管外科）
小山　裕（岐阜ハートセンター　心臓血管外科）
多田　憲生（仙台厚生病院　循環器内科）
西岡　健司（広島市立広島市民病院　循環器内科）

演者

Tav in Sav症例の外科の治療結果とTAVI治療検討
御子柴　晴樹（帝京大学　心臓血管外科）

Y incision, Konnoなどの弁輪拡大後のCT評価
吉岡　大輔（大阪大学　心臓血管外科）

Acknowledgements

CCT Structural Heart Diseases 協賛企業一覧

CCT Structural Heart Diseases Courseの開催に当たり、下記の企業の皆様より
ご協賛いただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

アボットメディカルジャパン合同会社

エドワーズライフサイエンス合同会社

株式会社カネカメディックス

日本メドトロニック株式会社

ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社

（2026年1月7日現在）
（50音順）